

『小孩月報』に見られるイソップ  
——併せて最近目にした幾つかの新資料

内田慶市

本号の表紙は『小孩月報』（第3年第11巻、光緒4年2月=1878.3）所収のイソップ「齊人妻妾」から採ったが、ここでも、「中国化」が見て取れるだろう。

ところで、『小孩月報』にはイソップが収められていることについては、拙著 2001 や本誌第4号（2002.6）でも触れたところであるが、先日、1月4日から7日まで上海を訪れる機会を得て、上海図書館でまとまった量の『小孩月報』を見ることができた。

これまでに、アメリカのセーラムにある Peabody Essex Museum で 1877-78 年の 12 巻を見てきたが、上海図書館にはそれを含めてかなりの号が所蔵されている。

Peabody のものは、上海図書館のものと同装幀が異なっており、表紙に「小孩月報 第二部 CHILD'S PAPER New Series Second Volume 1877-8」とあり、「耶穌一見不見謂之曰容提孩就我母禁之蓋有神之神者正如此人也」という句と絵が描かれている（図1）。また全体の英文目次が付されていて、そこには「The Child's Paper Contents of the Third Volume 1877-8」とあって、No.1から No.12の内容が示されているのであるが、つまり、この Peabody 所蔵本は後に「合本」されて出版されたものであることがわかるのである。

上海図書館のものは、毎月発行のものを綴じたものであるが、各号の表紙には「小孩月報」のタイトルと共に、「小成孩子徳 月朔報嘉音」という2句（「小孩月報」の文字をこの中に配している）が掲げられている（図2）。また裏表紙（図3）には英文のタイトルと目次が収められている。

『小孩月報』は光緒元年4月（1875.5）に創刊され、1915年に廃刊となるが、上海図書館には光緒2年4月（1876.5）の第13号から、光緒5年12月（1880.1）第5年第9巻までの合計45巻が所蔵されている。毎号（24号までは通しで号数が付けられてい

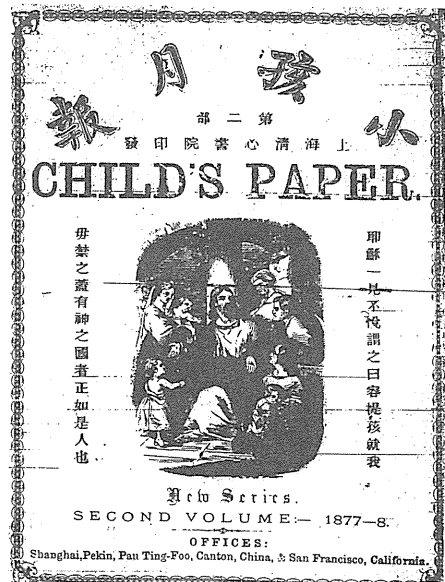


図1

るが、第3年からは各年度毎に1巻から12巻というようになっていた。全8葉。その内容は「遊歴筆記」や「火輪車路」「天文易知」「格物」あるいは「續天路歷程」「聖經古史」「論畫淺說」等々、外国の地理や文化、科学知識、西洋画、珍しい動植物の解説、キリスト教関係の故事など啓蒙的なものが主流をなすが、挿し絵も豊富である。そして、以下に示したようなイソップがほぼ毎号収められているのである。

- 獅熊爭食 (14号、1876.6)
- 龜求鷹 (19号、1876.11)
- 豺狼食羊羔 (登郡聖會堂書院王捷攀稿、21号、1877.1)
- 鵝下金蛋 (登州牌坊義塾學生孫士超、22号、1877.2)
- 農人救蛇 (登郡牌坊義學郭玉蓉、24号、1877.4)
- 狐罵葡萄 (第3年第2巻、1877.6)
- 狐鶴赴宴 (第3年第3巻、1877.7)
- 狗的影 (登州義學學生姜克鰲、第3年第4巻、1877.8)
- 捕蟬寓言 (武昌文教師義塾學生李祥金、第3年第5巻、1877.9)
- 鴉狐 (第3年第6巻、1877.10)
- 獅鼠喻言 (第3年第8巻、1877.12)
- 負心狼 (第3年第9巻、1878.1)
- 劣犬 (海上山英居士譯、第3年第10巻、1878.2)
- 齊人妻妾 (第3年第11巻、1878.3)
- 龜兔 (第3年第12巻、1878.4)
- 牧童說謊 (第4年第1巻、1878.5)
- 鹿照溪水 (浙寧周松鶴譯、第4年第2巻、1878.6)
- 雄雞相鬥 (第4年第3巻、1878.7)
- 鐵斧求柄 (第4年第4巻、1878.8)
- 瓦鐵缸同行 (第4年第5巻、1878.9)
- 二鼠 (第4年第6巻、1878.10)
- 杉葦剛柔 (第4年第7巻、1878.11)
- 獅驢狐狸同去打獵 (登州牌坊義塾學生溫桂芬來稿、第4年第8巻、1878.12)
- 龜求鷹 (第4年第9巻、1879.1)
- 鴉效鷹能 (第4年第10巻、1879.2)



図2

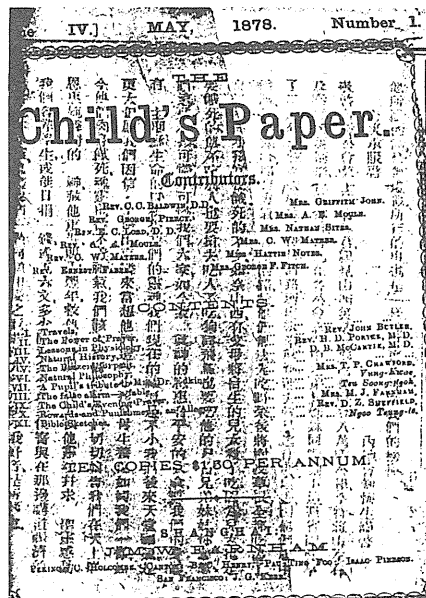


図3

- 蛙牛寓言 (第4年第11巻、1879.3)
- 義犬吠賊 (第4年第12巻、1879.4)
- 大熊 (北京同文館總教習丁韋良撰、第5年第1巻、1879.5)
- 驢妒犬寵 (第5年第2巻、1879.6)
- 狐與山羊 (品三氏評、第5年第4巻、1879.8)
- 騾影寓言 (第5年第5巻、1879.9)
- 騙狼 (第5年第6巻、1879.10)
- 眇鹿失計 (第5年第7巻、1879.11)
- 驢馬同道 (第5年第8巻、1879.12)
- 人獅論理 (第5年第9巻、1880.1)

これらのイソップは同一人物による漢訳ではなく、無署名のもの(主幹の Farnham の字である「海上山英居士」と明記してあるものも含めて)は恐らくは編集者によるものであろうが、ある場合には、ある場合には中国人の周松鶴のもの、ある場合には「投稿」という形をとったり、更には Martin (丁韋良) のものもあつたりするが、基本的には『意拾喻言』を底本とすることは、そのタイトルからも一目瞭然である。ロバート・トームの『意拾喻言』(1840)の影響力の大きさが窺い知れるというものである。ただし、文体は多くが口語体に改められており、また白話文言混交体でも、語句にはかなりの異同が見られ、大幅な改訂が行われたものと考えられる。

また『意拾喻言』に特徴的に見られた話の「まくら」の「中国化」は薄められており、逆



図4

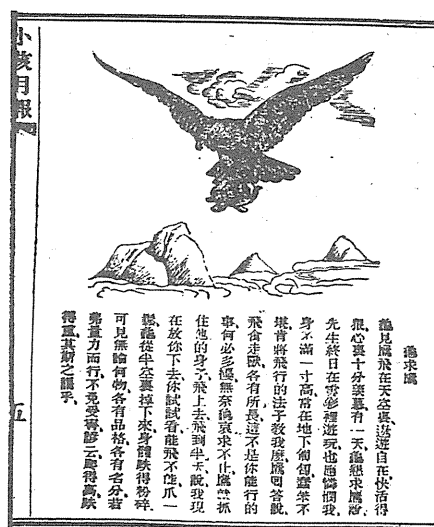


図5

に、「キリスト教的要素」が強くなっている。たとえば、「豺狼食羊羔 (狼と小羊)」では、

狼の名前が「恨天理」で、羊の名前が「傳福音」となっていたりする。特に、「投稿」の形のもの、「モラル」の部分にキリスト教を説く場合が多い。

子供向け、啓蒙雑誌ということで、挿し絵には十分な吟味がなされてようで、たとえば、「龜求鷹」は、19号(図4)と第4年第9巻(図5)の2度掲載されるが、その理由は最初の挿し絵が「不鮮明」(此喻言已登於第二年月報上、特因圖畫不甚真切、故此再登)であったと注が施されているくらいである。

なお、以下の4つの話はイソップとは俄に断定しにくいものであり、後考に待つが、「蛇龜較勝」は「ウサギと亀」の話を「蛇と亀」に変えたものである。

老鼠青蛙相爭(山東煙台狄師母來稿、15号、1876.7)

小魚之喻(18号、1876.10)

蛇龜較勝(浙寧周松鶴譯、第3年第1巻、1877.5)

蛇鼠寓言(寧監督會書塾童道法稿、第3年第7巻、1877.11)

この『小孩月報』におけるイソップについては、いずれ稿を改めて詳しく論ずる予定である。

今回上海図書館で見たものに、この他に『廣報』がある。これは『字典集成』(1868、後に第3版=1887において『華英字典集成』と改名)という中国人の手になる最初の英華字典を編纂した鄺其照の創刊(1886)した新聞であるが、上海図書館には光緒13年7月27日(1877.9.13、351号)、8月初3日(1877.9.19、355号)、8月初4日(1877.9.20、356号)3部所蔵されている(図6)。それには、『華英字典集成』の広告も見られる(図7)。



図6

この他、これまでに恐らく人の目にも触れることが少なかったと思われる資料を1つ紹介しておく。『中西通書』(1852年創刊)である。この書は、これまで1854年以降のものは日本やヨーロッパの図書館でも所蔵している所があった(関西大学図書館増田文庫にも1860年のものが1冊蔵されている)が、今回プリンストン大学図書館に1953年(咸豊3年)のもの、1854年(咸豊4年)のものが所蔵されていることが判明した。1854年のものは完

本ではないのが惜しまれるが、1853年のものは Wylie1867 の記載通りであって、39 葉からなる完本である。いずれも、Edkins の序文が付せられており、「格知の学」について概略されているし、1853年のものには「格知新學提要」が掲載されているが、詳しくは次号で述べることとする。実はこの書は「いわくつき」である。というのは、4 年前にハーバードに居た時に、一度は OCLC (アメリカの Webcat) で所在を確認したことがあり、インターライブラリー・ローンで複写を申し込んだことがあるのである。その時は、「紙が薄く破れやすいので、コピーは難しい。閲覧だけならば可能」という返事をもらっていたのだが、その後、何故か OCLC の検索にかからなくなり、所蔵する図書館名についてもハーバードのリファレンスでも分からなくなってしまっていたのである。それから 4 年後、幻の書に出会ったという次第である。「求めよ、さらば開かれん」とは正にこの謂である。

ところで、本号の沈国威氏の文章中に、たとえば、中国人による「Wade の語言自邇集から 19 世紀の北京語音の特徴を見る」という研究発表があったとある。あるいは、北京では昨年『語言自邇集』の活字本も出版されている。しかし、このような現状を見た時、どうしても言っておかねばならないような気になってくることがある。

活字本にする際に使われた版本が第 2 版で、それもいくつかの大学の蔵本を併せて見るという資料の扱い方に大きな問題があるということは言わないこととして、Wade 等のこの種の書物の重要性は日本ですでもう 50 年

以上も前から言われていたことであるということである。つまり、日本の文献が中国では読まれていないということを示すものである。日本語の壁のようなものを感じざるを得ないのである。つまり、今後は情報を中国語あるいは英語で発信することを心がけなければいけないのかも知れないと思うのである。先人達の過去の仕事を見ていないことは、今行っている仕事が徒勞に帰す場合もあることを心すべきである。もちろんこれは、学問の「いろは」なのであるが、「言葉の障害」は考えておくべきであろう。

俱蒙錄加二筆資先送暫收八折 本局代收 左公海代訂	店常有各色 漆油帆布水 黑白鉛片車 什物船上器 繩索鐵錘珠 皮帶等件舖 一香港海傍興 街門口 月初三日	<b>華英字典出售</b> 本號現有鄭容階先生新印字典出售此字典已歷第三次增訂詳明華英字典一切解義均比從前加備中有語言文字書札稅則雜字各件最便於查考字義中外人士均稱通用久矣如欲購取此書請到本號探買是荷 光緒十三年七月十九日 上海二馬路華彰號 香港荷里活道 文裕堂 省城天平街廣百宋齋 雙門 底聖教書樓華華里廣報局全啟	糖出投因時常有 愈多則本行更有 領時除將價一 再酌釐金如有意 是荷此佈 五元七毫 百包出投 廣昌洋行謹啟	<b>新書出售</b> 啟者駢字類編已出書每股找光洋十六元 向上海同文局照取如在粵省做局亦可代 取每洋作七錢四分加水脚保險費半元又 寄有資治通鑑股票先收四元書成找英洋 十元東華錄股票先收四元書成找十二元 十三經註疏股票先收三元書成找八元新 出廿四史股票先收三元書成找五十四 元去禮居股票先收五元書成找十元均有 籍元去禮居股票先收五元書成找十元均有 標本請閱 一在沙基電報局	啟者本局有上海同文書局寄售石印書籍列左 康熙字
--------------------------	---	--	---	--	-------------------------

図 7